

千葉県立美術館の活性化について（取組状況の報告）

令和 4 年 1 1 月 7 日
環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

千葉県では、令和 3 年 3 月に千葉県生涯学習審議会より答申をいただきました「県立博物館・美術館の今後の在り方」（千葉県生涯学習審議会第三次答申）を踏まえつつ、美術館の専門家による有識者の皆様から御意見をいただくため、令和 3 年 1 2 月に千葉県立美術館アドバイザリー会議を立ち上げ、県立美術館の今後の在り方について検討を進めています。

これまで、県立美術館の今後の方向性を提示して御意見をいただくとともに、先行して着手できる事項として、令和 4 年度 9 月補正予算で周辺整備費用を事業化し、地域と一体となった美術館の活性化に取り組んでいます。

1. アドバイザリー会議での委員意見

- ・アート概念の拡大に対応できていない。
- ・美術団体の交流を図る美術の大衆化の拠点は実現できていない。
- ・建物のポテンシャルを活かせていない。
- ・外部人材・能力の活用ができていない。
- ・地域全体としての活性化の可能性はある。まわりの環境ともっと対話していると良い。

2. 県立美術館の今後の方向性（第 4 回県立美術館アドバイザリー会議で提示）【別紙参照】

- （1）新たな出会い、発見の場を目指す
- （2）県内のアートプロジェクトの拠点をを目指す
- （3）次世代の若手作家を育てる

3. 令和 4 年度 9 月補正予算による周辺整備の概要

- （1）環境整備
 - ・周辺観光に繋げる屋外サインの設置
 - ・ポートパーク連絡通路改修
- （2）賑わい創出
 - ・屋外テント・机椅子・傘の設置等

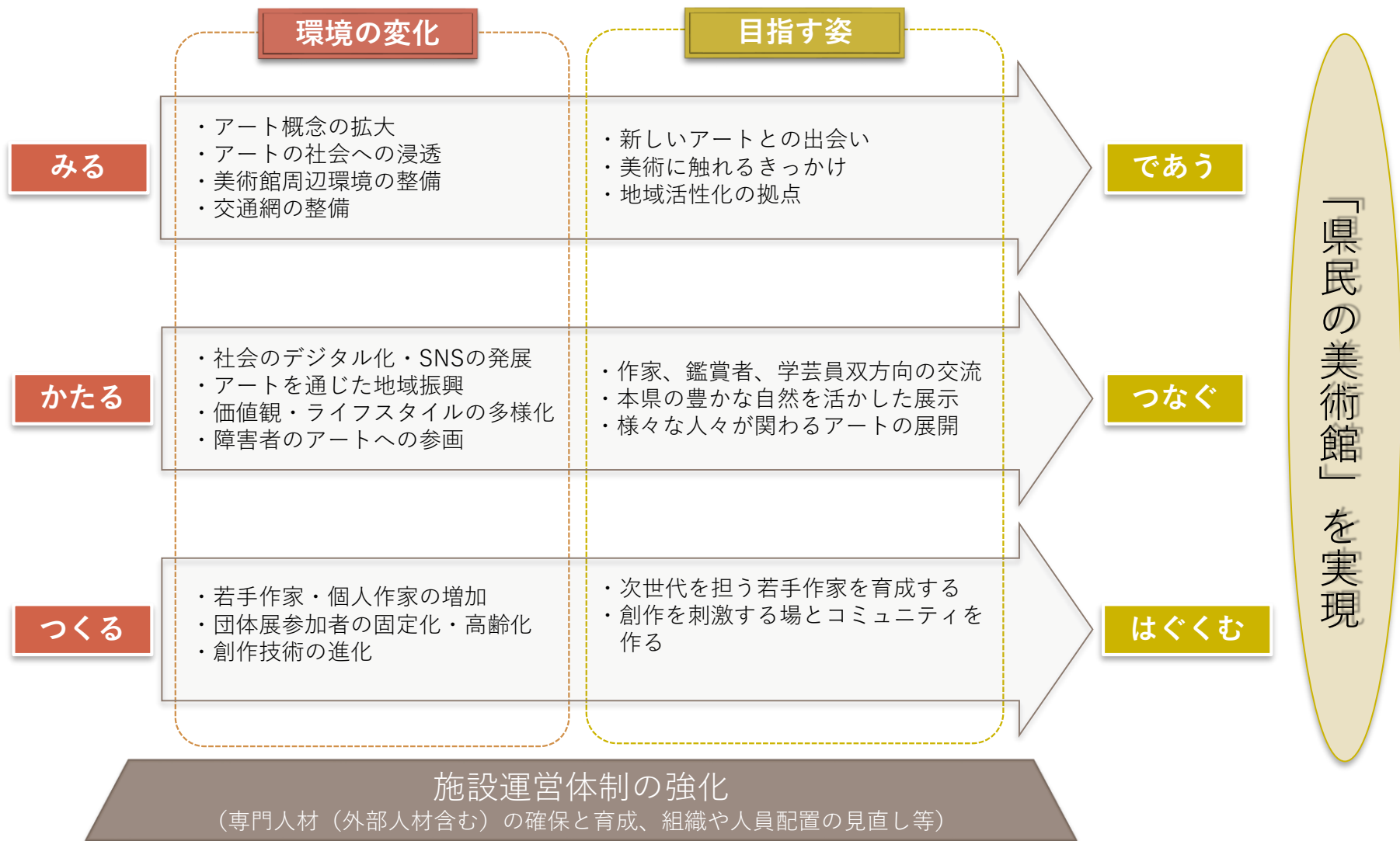
4. 今後のスケジュール

| 年度 | 令和 3 年度 | | 令和 4 年度 | | | 令和 5 年度 |
|------------|----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|-------------|
| 会議 | 第 1 回 12/22 | 第 2 回 3/16 | 第 3 回 5/11 | 第 4 回 8/29 | 第 5 回 1 月頃予定 | |
| 美術館活性化基本構想 | | | 骨子策定 | | | 骨子をもとに構想を策定 |

会議での意見をもとに、令和 4 年度中に「千葉県立美術館活性化基本構想骨子（仮称）」を策定予定。

4. 2040年に目指す姿(1)

～運営体制の強化を図り、「みる・かたる・つくる」の理念をアップデートする～



4. 2040年に目指す姿(2)

開館当初の理念にもう一度立ち返りつつ、今の時代に適合した「県民の美術館」を実現する。

【であう】新たな出会い、発見の場を目指す

- 近代洋画など、これまで収集してきた作品が活用されるとともに、千葉県出身の作家に特化することなく、現代美術など新しいアートの作品が充実している。
- いつ来ても新しいジャンル、作家、作品に出会うきっかけを得る機会がある。
- 千葉文化資産や、音楽、海・食文化、デザイン等の県内文化とアートの融合などにより、本県ならではのアートシーンが創出され、美術への関心が薄い人も美術に出会う驚きと感動が得られる。
- 地域の核となるような施設であるとともに、レストランやショップの魅力が高まっている。

【つなぐ】県内のアートプロジェクトの拠点を目指す

- 美術館にとどまらず、首都圏にありながら豊かな自然を有する本県の豊かな特色が活かされ、野外空間での展示などにより本県ならではのアートシーンが創出されている。
- 県内若手アーティストや障害者、外国人、県内大学、学芸員など、様々な人々が関わりながらアートが展開され、かつ、それを誘発する機能を有するコミュニティがある。
- アートを通じた社会課題解決への関心が提起されている。

【はぐくむ】次世代の若手作家を育てる

- 次世代を担う若手作家が磨き上げられ、世界へ羽ばたいている。
- 国内外の作家による滞在制作など、創作を刺激する作家や作品、情報と出会える場がある。
- 若手作家同士のコミュニティが生まれ、活動が活発に行われる場がある。